



2020年10月26日

各 位

会 社 名 トランコム株式会社
 コード番号 9058 (東証・名証第1部)
 代 表 者 代表取締役 社長執行役員 恒川 穰
 問 合 せ 先 取締役 上席執行役員 経営企画担当 武部 篤紀
 T E L 052-939-2011

2021年3月期 通期業績予想 (連結) 並びに剰余金の配当 (中間配当)

及び配当予想に関するお知らせ

2020年7月27日に公表いたしました「2021年3月期第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」において、未定としておりました2021年3月期(2020年4月1日~2021年3月31日)の通期業績予想及び配当予想について、下記の通りお知らせいたします。

また、当社は2020年10月26日開催の取締役会において、下記のとおり2020年9月30日を基準日とする剰余金の配当を行うことを決議いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 通期業績予想

(1) 2021年3月期 通期連結業績予想数値(2020年4月1日~2021年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	—	—	—	—	—
今回修正予想 (B)	149,000	7,640	7,770	5,270	538.54
増減額 (B-A)	—	—	—	—	—
増減率 (%)	—	—	—	—	—
(ご参考)前期実績 (2020年3月期)	163,463	7,566	7,417	4,909	501.75

(2) 2021年3月期 セグメント別業績予想

(単位:百万円)

		前期実績	今期予想	増減額	増減率 (%)
ロジスティクス マネジメント事業	売上高	55,024	54,750	△274	△0.5
	営業利益	3,642	4,410	767	21.1
物流情報 サービス事業	売上高	92,418	78,970	△13,448	△14.6
	営業利益	3,272	2,940	△332	△10.2
インダストリアル サポート事業	売上高	7,302	5,550	△1,752	△24.0
	営業利益	231	80	△151	△65.4
その他	売上高	10,321	11,270	948	9.2
	営業利益	561	340	△221	△39.4
連結消去	売上高	△1,605	△1,540	65	—
	営業利益	△140	△130	10	—
連結合計	売上高	163,463	149,000	△14,463	△8.8
	営業利益	7,566	7,640	73	1.0

(3) 業績予想の理由

2021年3月期の業績予想につきましては、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、適正かつ合理的な算出が非常に困難な状況にあることから「未定」としておりました。新型コロナウイルス感染症の収束時期は依然として見通せない状況ではありますが、現時点において入手可能な情報をもとに一定の前提を置いて業績予想を算定いたしましたので公表いたします。

本日発表しております2021年3月期第2四半期業績は、国内輸送の需要が減衰したことによりコア事業である物流情報サービス事業はその影響を大きく受け、貨物情報数が大幅に減少いたしました。またインダストリアルサポート事業においては、自動車関連の生産工場の閉鎖や減産などにより、稼働人員が減少いたしました。一方でロジスティクスマネジメント事業においては、前期稼働拠点の寄与及び今期新規業務稼働に加え、個人宅配ニーズの高まりにより物量が大幅に増加いたしました。このような非常に厳しい事業環境の中、各事業で適正人員の配置、業務効率の向上、経費の削減に取り組んだ結果、売上高は前期比9.4%減少いたしました。営業利益は2.2%減益と減益幅の縮小に努め、営業利益率は前期比0.3ポイント改善いたしました。

第3四半期以降においても、新型コロナウイルス感染症の収束時期の見通しや景気動向が、当社グループの今後の業績に与える影響が懸念されます。予想値の算出にあたっては、物流情報サービス事業における貨物情報数減少は6月末で底打ちし、その後徐々に回復傾向にあるものの2021年3月期は影響が残る前提といたしました。なお、事業環境が悪化する中で、製造業への営業強化による安定した貨物量の確保、混載貨物の拡充や、様々な輸送モードへの対応など、市場環境に左右されない収益構造を追求し、強固な事業基盤の構築を進めております。インダストリアルサポート事業においては、自動車関連の生産工場での人材派遣サービスに加え、他業界への業容拡大を推進しております。ロジスティクスマネジメント事業においては、引き続き圧倒的な現場力を実現するべく、取引先との関係強化、安全の徹底、品質の向上、職場環境整備に取り組んでおります。全社での取り組みとしては引き続きコストへの強い意識を持ち、コストコントロール施策を検討・実行してまいります。

これらを踏まえ、通期の売上高につきましては、149,000百万円（前期比8.8%減）、営業利益7,640百万円（前期比1.0%増）、経常利益7,770百万円（前期比4.7%増）、親会社株主に帰属する当期純利益5,270百万円（前期比7.3%増）の減収増益を計画しております。

2. 剰余金の配当（中間配当）

	決定額	直近の配当予想 (2020年7月27日公表)	前期実績 (2020年3月期中間配当)
基準日	2020年9月30日	同左	2019年9月30日
1株あたり配当金	55円	未定	52円
配当金総額	542百万円	—	512百万円
効力発生日	2020年12月8日	—	2019年12月3日
配当原資	利益剰余金	—	利益剰余金

3. 配当予想

(1) 2021年3月期配当予想

	年間配当金		
	第2四半期末	期末	合計
前回発表予想	—	—	—
今回修正予想	—	55円	110円
当期実績	55円	—	—
前期実績(2020年3月期)	52円	52円	104円

(2) 配当予想の理由

当社グループは、株主の皆様への利益還元を重要事項の一つと認識し、経営基盤・財務体質強化に向けた内部留保の確保に留意しつつ、財務状況及び連結業績等を総合的に勘案し継続的に安定した配当を実施することを基本方針としております。当事業年度の配当につきましては、上記方針のもと前事業年度に引き続き増配を実施し、年間の1株当たり配当金を110円（中間配当55円、期末配当55円）といたします。

以上